

# 読書指導と言語活動との 関連を図り伝え合う力を育む

～くらべて よんで つたえて ひろめる～



大阪府大阪市立  
榎本小学校教諭  
坂田みずほ

## 1 はじめに

言語活動と読書指導については、個々別々の指導の実践が多い。例えば、音読についてはこれまで様々な指導が行われてきたが、読むこと自体が主体の自分のための音読が多かった。また、読書指導は、読解後の発展として、なんとなく本を読むということが多かった。これから求められる言語活動とは、児童が自ら学び課題を解決していくための学習過程を明確化し、単元を貫く言語活動である(文部科学省『言語活動の充実に関する指導事例集』)。つまり、最後に本を読むという従来の指導計画ではなく、読む目的を持って本を選んだり、目的に応じて内容を捉えたり、自分の考えをまとめて伝え合う言語活動と読書指導が授業の中で、指導計画の中で相互に関連していくことで、伝え合う力を育成することができる。

今回の実践報告は、「物語文」や「説明文」さらに「詩」において「くらべる」ことを通して読みを深め、読書指導と言語活動を相互に関連させた授業について主に低学年でのこれまでの取り組みを報告する。言語活動については、特に音読を中心に取り組んできた。「よんでみよう」では、読解だけでなく、自分のための音読をさらに他の人に聞いてもらい、読みを伝え合うという聞き手と読み手との相互作用のある音読指導や単元を貫く読書指導に取り組んだ。

新学習指導要領では、「B 書くこと」での交流に関する事項では、第1、2学年では「書いたものを読み合い」、第3、4学年では「書いたものを発表し合い」、第5、6学年では「表現の仕方に着目して助言し合う」とされ、聞き手と読み手の相互作用を記している。さらに内容の指導事項では、「自分の経験」「自分の考え」「自分

のものの見方や考え方」という「自分の考え」を重視した今回の新学習指導要領は、小学校後さらに中学校、高等学校でも表記されている。

「つたえよう」では、音読指導と読書指導を関連させることで、自分の考えや自分の意見や表現したいことを相手に伝えることができるよう取り組んだ。音読も読書も自分で「読む」活動からさらに相手に働きかける「聞いてもらう」ことができる活動だからである。相手があればそこにコミュニケーションが生まれる。本研究では、低学年としての実態を踏まえ、まずは1対1での伝え合いから全体への伝え合いへと発展させている。

音読指導に関する指導事項では、第1、2学年において、「他の人に聞いてもらったりするなど聞くということを意識できるように工夫する」と示して聞き手を意識した音読指導が示されており、さらに「C 読むこと」領域の(1)指導事項アで、第1学年及び第2学年は「語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて」、第3学年及び4学年は「内容の中心や場面の様子がよく分かるように」、第5学年及び6学年は「自分の思いや考えが伝わるように」音読や朗読することが示されている。

「ひろめよう」では、全体で伝え合う場を設定した。さらに読書の視点を広げ、発表を聞いて目的意識を持って本を選ぶ設定をしている。読書指導については低学年では「楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと」、中学年では「目的に応じて、いろいろな本や文章を選んで読むこと」、高学年では、「目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと」とされており、読書指導が重視されている。

読書指導と言語活動を互いに関連させることで国語が好きになる子どもを育てていきたい。

## 2 伝え合う力を育てる指導の実際

### (1) 指導のポイント

くらべよう………㊦ よんでみよう………㊧  
つたえよう………㊨ ひろめよう………㊩

### ◆ア 「くらべよう」を焦点化した実践 実践1 「おおきなかぶ」をよもう

#### 言語活動

ア 本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読む。  
オ 読んだ本について好きなところを紹介する。

### 1. 内容

「読み」を深めるために、同じ題名の本を比べさせた。東京書籍『おおきなかぶ』を学習後、同じ題名のプロンズ新社 中井貴恵訳『おおきなかぶ』を読み聞かせ、文章や構成や挿絵の違いを比べさせた。さらに、出版社の違う『おおきなかぶ』やかぶに関する本をブックトークで紹介し、ジャンルの違う本を読み広げた。

### 2. 学年 1学年

### 3. 書名

福音館書店『おおきなかぶ』 内田莉莎子訳  
プロンズ新社『おおきなかぶ』 中井貴恵訳

### 4. 目標

- 想像を広げながら読み、本を読むことの楽しさを味わう。
- 同じタイトルの本に興味を持ち、順序を考えばながら内容の大体を読む。

### 5. 指導計画

(丸数字は時数)

学習活動	指導上の留意点	備考
第一次⑧ 『おおきなかぶ』を読み取る。	○場面の様子について登場人物の行動を中心に想像を広げながら読ませる。	・ワークシート ・かぶ
第二次① [本時] ㊦二つの『おおきなかぶ』を読み比べる。	○アニメーション「これだけのもの」 「ダウト」を取り入れる。	・ダウトカード ・絵カード ・かぶがぬけたところのカラーコピー
第三次③ ㊧好きな本を選び読む。	○絵本を動物別に分ける。	・くま、ぶた、うま、さる、とり、いぬ、ねこのラベル。
第四次② ㊨好きな本を紹介する。	○好きな理由も入れる。	

## 6. 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	言語活動に関する指導上の留意点
1. 『おおきなかぶ』の「ダウトをさがせ」をする。	○読み間違えたら「ダウト」と言って挙手させる。	・時間的な順序や事柄の順序などを考えさせる。 ・場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読ませる。
2. 「これだけのもの」	○登場人物の持ち物の絵を見せ想起させる。	・文章中の大事な言葉や文に気付かせる。
3. 『おおきなかぶ』プロンズ新社の読み聞かせを聞く。		
4. ㊦二つのお話を比べる。	○登場人物やかぶがぬけた様子の表現の違いを比べさせる。	・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読させる。
・㊧本でもう一度確認する。	○㊧掛け声を音読する。	・㊧掛け声の違いを比べる。
5. ㊨『おおきなかぶ』どちらが好きか発表する。	○どちらが好きか理由も言えるように支援し意思表示させる。	・文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えを発表させる。 ・本や文章を楽しんだり想像を広げながら読む。
6. ブックトークを聞いて本を読む。	○同じタイトルの本やかぶの本を紹介する。	
7. ㊩本を紹介する。		

### 7. まとめ

- 一学期に学習した『おおきなかぶ』をアニメーションの手法を使って発展させることができた。
- 「ダウトをさがせ」で登場人物や掛け声などを読み間違えたことで、出版社の違う『おおきなかぶ』の読みかきせでは、意識して楽しく比べて読むことができた。
- ブックトークをすることで、同じタイトルでもそれぞれの面白さがあることに気付かせることができ、選書に変化が見られた。
- 自分が好きな「おおきなかぶ」について、自分の言葉で理由を表現することができた。
- かぶが抜けた場面を比べる際、拡大のカラーコピーを提示したので、挿絵についても効果的に比べることができた。

### ◆イ 「よんでみよう」を焦点化した実践 実践2 「おたからぶっくをつくらう」

#### 言語活動

イ 物語の読み聞かせを聞いたり、物語を演じたりする。  
オ 読んだ本について好きなところを紹介する。

### 1. 内容

題名も作者も違う二つの物語を比べること

で文章の構造を読み取ることができた。さらに、同じような構成の本を読み、好きな場面に「おたからぶっくをつくろう」という言語活動を通して、絵や文章で表現させた。同じような構成に着目させたことで、読む際に目的意識を持って読書することができた。

## 2. 学年 1学年

### 3. 単元名

東京書籍一上『おおきなかぶ』 内田莉沙子訳  
東京書籍一下『サラダでげんき』 角野栄子作

### 4. 目標

- 登場人物が増えていく様子を想像し、その動きが繰り返されることを比べながら読むことができる。
- 一つのことをみんなで協力するという共通点を読むことができる。
- 同じような構成の物語を読んで好きな場면을音読する。

### 5. 指導計画

学習活動	指導上の留意点	備考
<b>第一次</b> ① 本時 ③『サラダでげんき』と『おおきなかぶ』を読み比べる。 <b>第二次</b> ① 同じような構成の物語のブックトークを聞き「おたからぶっく」を作ることを知る。 <b>第三次</b> ① ④同じような構成の本を読書する。 <b>第四次</b> ③ ③「おたからぶっく」にまとめる。 <b>第五次</b> ① ④「おたからぶっく」を紹介する。	○登場人物をおさえる。 ○協力しているところをおさえる。 ○次々と動物たちが出てくる物語を紹介する。  ○好きな本を決める。  ○好きな場面を絵で描かせたり好きな文章や言葉を書かせたりする。 ○本を選んだ理由や好きな所や感想を伝え合う。	・登場人物の揭示物 ・かぶの揭示物 ・サラダの揭示物 ・「おたからぶっく」のモデル  ・ワークシート

### 6. 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	言語活動に関する指導上の留意点
1. 『サラダでげんき』の読み聞かせを聞く。 2. 『おおきなかぶ』の読み聞かせを聞く。 3. ④二つの話を比べて同じところを発表させる。 4. 学習の予定を知る。	○挿絵をはり、登場人物を確認しながら読む。 ○初めと最後の展開を比べる。 ○動物が次々と現れてくる様子をおさえる。 ○主人公の初めと終わりの気持ちを比べる。 ○みんなで協力しているところを比べる。 ○ブックトークを聞く。	・時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読む。 ・場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読む。 ・自分の考えを発表する。

## 7. まとめ

○同じような構成の物語を集める際の三つの観点は、

- ・主人公は人間もしくは、動物。
- ・動物が次々出てくること。
- ・みんなで協力して何か一つのことを手伝う。

○「おたからぶっく」は、ワークシートをもとに作成し、登場人物はバラバラにポケットに入れられるように工夫した。聞き手にも「読んでみたい」という興味をひくものになった。さらに好きな文章を書き写させたことで自分の「おたからぶっく」に愛着を持てるようになった。

### ◆ウ「つたえよう」を焦点化した実践 実践3「かぞえうた」をよもう

#### 言語活動

ア 本や文章を楽しんだり、想像を広げながら読むこと。

#### 1. 内容

漢数字のある詩を読み比べ、音読を工夫させた。二人組で工夫した音読を伝え合い、参加型の音読を考えさせる設定にした。

#### 2. 学年 1学年

#### 3. 単元名

光村図書一上『かずとかんじ』  
東京書籍一上『かぞえうた』

#### 4. 目標

- 漢数字やものの数え方に興味を持ち、漢字を使おうとしている。
- 言葉の意味を考えながらリズムよく音読している。
- かずとかんじとを比べ音読を工夫し伝え合う。

#### <音読モデル>

みんな ①②③④⑤	みんな ①②③④	みんな ①②③④	みんな ①②	みんな ①	みんな ①						
ふえてくる。(略)	どんだんだん	こぶたが五ひき。	五つたたくと、	こぶたが四ひき。	四つたたくと、	こぶたが三ひき。	三つたたくと、	こぶたが二ひき。	二つたたくと、	こぶたが一ひき。	一つたたくと、

かずとかんじ

## 5. 指導計画

学習活動	指導上の留意点	備考
第一次② 「かずとかんじ」を音読し、数え方を学習する。	○音読させる。 ○模読を聞く。 ○数え方の例を挙げる。	・スタンド式の鏡 ・リズムオルガン
第二次① ③「かぞえた」の読み聞かせを聞いて「かずとかんじ」とを比べる。	○こぶたが増えていく様子をおさえる。 ○たたくを動作化させる。 ○二つの詩を比べて似ている所を発表する。 ○二人組	・「かぞえた」 ・こぶた10匹
第三次② <b>【本時】</b> ④「かぞえた」の音読を工夫する。	○漢数字が入る詩の本を読み聞かせる。	
第四次② ①詩の本を探す。		

## 6. 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	言語活動に関する指導上の留意点
1. 「かぞえた」を音読する。	○範読する。 ○指名読み	・語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する。
2. ④「かぞえた」の音読のモデルを音読する。	○人数を変えて読む。	・音声化することによって互いに理解し合っているかどうか確認し合う。
3. ③音読の工夫を考え、線を引く。 ○みんなで読む所に赤線 ○二人で読む所に黒線 ○一人で読むところは丸で囲む。	○二人組で工夫を考え伝え合う。  ○動作があれば入れる。 ○みんなのところではサインを送る。	・明瞭な発音で文章を読むこと。 ・ひとまとまりの語や文として読むこと。
4. ③音読の仕方を発表し録音する。	○工夫したところを発表する。	・言葉の響きやリズムなどに注意して読むこと。
5. ③次時は、詩の本をさがすことを知る。	○詩の本をブックトークする。	・聞き手も参加する音読にする。

## 7. まとめ

- となりの人と伝え合うことで、全体での発表の際自信をもって発表できる。
- なぜその読み方にしたのか根拠を説明させる。
- 聞き手も参加する音読活動が展開できる。

### ◆エ「ひろめよう」を焦点化した実践

#### 実践4「どうぶつひみつじてんを作ろう」

#### 言語活動

ウ 事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと。

## 1. 内容

『ビーバーの大工事』の読解後、他の動物のひみつについて比べさせた。他の本を読んで

分かったことをクイズにして伝え合った。同じ動物でも調べていることが違うので、意欲的に取り組み読書が広がった。

## 2. 学年 2学年

## 3. 単元名

東京書籍二下『ビーバーの大工事』

## 4. 目標

- 図書を使って動物のひみつを調べる。
- 伝えたいことをクイズにしてまとめる。
- 調べたいことを伝え合う。

## 5. 指導計画

学習活動	指導上の留意点	備考
第一次⑨ 『ビーバーの大工事』を読む	○ビーバーの体の特徴、敵から身を守る方法をおさえる。	
第二次① <b>【本時】</b> ③動物の生態についての本を読みビーバーと比べる。	○本を選ぶ。 ○書名や作者名、調べたいことを短い文章でまとめさせる。	・ワークシート  ・付箋 ・「どうぶつのひみつマップ」
第三次③ ④クイズにしたいところを読み「どうぶつひみつじてん」を作る。	○クイズの形式を決め面白かったところや驚いたことを選ぶ。 ○③ビーバーとくらべて、体の特徴や「何が」「どうなる」具体的な数字等を入れることを伝える。 ○質問や感想を伝え合う。	・ワークシート ・色鉛筆
第四次① ⑤クイズをする。		
第五次① ⑥友達のクイズを聞いて読みたい本を選ぶ。	○「どうぶつのひみつマップ」を参考にさせる。	・自分の考えや思いを発表する。

## 6. 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	言語活動に関する指導上の留意点
1. 学習活動をつかむ。	○ビーバーのひみつクイズをふり返らせる。	・文章中の大事な言葉や文を書きぬくこと。
2. 本を選ぶ。	○お気に入りの本を選び写真を撮る。	・楽しんだり、知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと。
3. ③動物の生態について比べる。	○体の特徴を比べる。 ○食べ物や住んでいるところや敵から身を守る方法を比べる。	

## 7. まとめ

選書は公共図書館に依頼した。内容を把握しておくために全ての書籍に目を通した。書籍には、名前を書いた付箋をはらせた。一人ひとり自分が選んだ本とともに写真を撮っ

て本との出会いを大切にしたい。自分が調べた本に愛着を持ちずみずみまで読むようになった。写真についてはクラスで動物ごとにまとめて掲示作品「どうぶつひみつマップ」にした。

## (2) どの子ども音読が好きになるための工夫

### ア 音読カードの工夫

学級通信や懇談会で折にふれ、ご協力願ひ啓発してきた。宿題ははんこ。自主的音読はシール。音読帯は、枚数ごとに色が変わる。一目で何枚読んだのかが分かり、自主的に音読する児童が増えた。音読カードは、保護者からの励ましの言葉を書いてもらうことでさらに児童の意欲も高まった。また、保護者にも音読を参加型にすることで子どもと楽しんで音読ができたという声をいただいた。

### イ 一人一冊の「みどりちゃん」※

教科書以外の詩を音読し、暗唱する詩集。暗唱は合格するとシールを貼る。言葉の意味、めあて、動作化のヒント、感想欄がある。普段から動作化など表現豊かな音読や読むだけでなく言葉の響きや意味についても想像させることがねらい。自分の音読の歩みがのこる。

### ウ 個の読みを育てる音読

#### (ア) 声のものさし

教室には、声のものさしを掲示しているが入学した児童の声の出し方には、個人差が大きい。どなったような大きな声になってしまう児童や声が小さく全体で話すことが苦手な児童がいる。「黒板に届くように」というふうには声のイメージを持たせたり、運動場の端から端まで聞こえるように詩を音読する体験もさせたりしている。お腹に手をあてて膨らむように声を意識して出させた。

#### (イ) 口形と発音

自分の口の形を鏡で見ながら音読したり、声を録音しふり返らせたりすることで意識も変わる。口の開け方を意識させるためにスタンド式の鏡をお道具箱に入れている。自分の発音と口の開き方を目と耳で軌道修正できる。また、自分の声を録音することは、聞き手を意識した声の出し方につながり、自分の声の成長の変化をふり返る材料にもなる。口形に気をつけるとともに言葉の音節を意識させるために「お話が分かるように言葉のかた

まりを区切って読みましょう」と指導している。朝の会での音読スピーチや暗唱では目的意識を持った音読につながった。

#### (ウ) バリエーション豊かな音読の形態

- ・電車読み 教室の右半分左半分に分けて読む。椅子を電車のように向き合わせ掛け合うように読み、読み手は、読む時に立つ。
  - ・円陣読み 班で円のようにイスを並べて読む。友達と一緒に声を出すことで大きな声が出るようになる。
  - ・ウエーブ読み 縦の列バージョンと横の列バージョンがある。いずれも読むときだけ、立って読む。
  - ・ダウト音読 指導者がわざと間違えて読む。聞き手は間違いに気づいたら「ダウト！」と叫んで手を挙げる。指名されたものが答える。
  - ・穴あき音読 英語活動で取り上げられている手法。今まで練習した詩の一部分が穴あきになっている。消しゴムなどで見えないようにして読む。暗唱の際も支援教材になる。
  - ・音読試合 隣の人と机を向き合い音読する。一方は音読を聞く。自分の教科書を相手に渡す。間違ったところは、えんぴつで線を書く。二回目間違えずに読めたら消してもらう。さらに、教科書は相手に渡さず間違ったところで交代し、決められたところまで間違えずに読める方が勝ち。
  - ・花丸プレゼント 互いに音読を聞き合い、上手にできたら相手の手の平に指で花丸を描いて認め合う。「大きな声で読めたら花丸」「すらすら読めたら花丸」とめあてを持たせる。
- #### (エ) その他
- ・「おんどくぶつく」の作成 音読を録音し「おんどくぶつく」を作る。ICレコーダーの録音再生が便利。聞くということを意識させ、音読の表現力を豊かにするために自分の声を録音する。声をふり返り意識するようになる。
  - ・リズム伴奏の活用 オルガンのリズム伴奏の活用は音読への意欲と集中力が高まる。初めは8ビートでリズムは90。はっきり口形に気をつけた音読ができる。慣れると100で読む。120、130とリズムを速め変化のある音読になる。教材によっては、適さな

いものもある。

- **BGMの活用** 物語文や詩で、情景や場面に合わせてBGMを入れる。場面ごとに登場人物の心情に合わせたBGMを流すことで、さらに叙述に即した音読が深まり一人ひとりの表現が豊かになる。しかし、適さないものもある。音楽の有無や選曲については、作品の特性を考えなければならない。
- **読みきかせCDの活用** 朝や帰りの会などで読み聞かせCDを活用した「ききどく」。題名を考えたり「いつ」「どこ」「だれ」を聞きとる。感想を書かせ交流する。CDを選ぶにあたっては、登場人物や「いつ」「どこ」「なに」「どうした」という話の展開が分かりやすいものがよい。

### 3 成果と課題

#### 〈成果〉

- 同じ題名やよく似た構成のもう一つの教材を提示した指導計画にしたことで、読書指導に単元を貫いて取り組むことができた。
- 指導計画を立てる際ワークシートを作成し、自分の考えを表現できるようにした。また、「くらべる」「よむ」「つたえる」「ひろめる」を系統立てたことで、児童が主体的に思考し判断できる学習過程になった。
- 「くらべる」ことで、読みが深まり、児童の言語活動への意欲が高まった。どんな力をつけたいかを明確にし、それに合った言語活動を取り組ませることができた。
- 親子での音読への意欲が高まった。学級通信「CHEER」で家庭に日々呼びかけている。音読帯や日々の実践を通して継続的に児童が音読をしたいと思う意欲が、家庭の協力へつながった。誉めてもらうことが増え動機づけになった。保護者から「音読が上手くなった」と感想をもらった。
- 読書への意欲が高まり目的を持って本を選ぶようになった。公共図書館と連携した結果、読書が好きになる児童が増えた。さらに、同じ題名や同じ作者を選ぶという目的意識を持って読んだり、友達の発表を聞いて紹介された本から読書の幅が広がったりした。
- 聞き手を意識した言語活動が伝え合う力を育んだ。普段から相手に聞かせる音読や聞

き手参加型の音読の工夫などを取り入れることを通して、コミュニケーションが生まれ、個の読みや表現力が高まった。自分の考えや思いを伝え合うことに自信をもつ児童が増え、共に音読する楽しさや達成感を味わわせることができた。さらに、授業への集中力が高まり、意識して相手の話を聞くようになった。

#### 〈課題〉

これからも児童の実態をふまえ、どの単元でどのような能力態度を育成するのか、目的や場面、方法を具体化しながらねらいを焦点化した指導計画を立てたい。

課題としては、「話す」・「聞く」を高める指導法の工夫である。自分の考えや思いを「伝え合いたい」という気持ちがあっても、どう話せばいいのか分からない児童がいる。話し合いを活性化させための手立てについて今後は研究していきたい。

## 受賞の言葉

このたびは、伝統ある「わたしの教育記録」の賞をたまわりまして心よりお礼申し上げます。新卒時代から何十年も愛読させていただいている「教育技術」に自分が載るなんて、夢のようです。

どの子ども読書が好きになるような楽しい授業をしたいという思いで、普段の授業を記録にまとめました。今回は、言語活動と関連させ伝え合う力を育てるために4つの視点（くらべよう・よんでみよう・つたえよう・ひろめよう）でまとめています。この取り組みを通して目的を持って本を選んで読むようになったり、読書指導を単元を貫いて指導計画を立てたので言語活動への意欲が高まったりしました。私の日々の実践が少しでも多くの方々の実践の参考になれば幸いです。まだまだ課題も多く研究はこれからです。今後も一層の精進を重ね、新たなテーマに向かってどんどん挑戦したいと思っています。

(坂田みずほ)